

北海道富良野緑峰高等学校の行動計画（グローバル・アグリハイスクール宣言 Part II）

全国の農業高校の行動計画		学校において令和6年度に重点化する取組及び具体的方策			
「5つのミッション」	「8の行動計画」	行動計画の中で重点化する取組	実現状況	課題	評価
I グローバル教育で人材を育てる学校	1 「生徒一人ひとりを一層輝かせ成長させる教育」を行います。	(1)日本農業技術検定3級合格の100%を目指す。 (2)アグリマイスターシルバー取得の50%を目指す。 (3)3年生の進路決定率100%を目指す。	(1)結果未到着 (2)現在12名申請中、約63% (3)概ね達成	日本農業技術検定については、試験前だけではなく日頃の受験対策を実施し、農業の基礎基本の確実な定着を目指す。	4
	2 「世界と日本をつなぐグローバル教育」を行います。	(1)世界の農業情勢について理解を深める授業を各学年2時間以上実施する。	(1)交流活動については実施できた。農業新聞を活用し、農業情勢の理解を深めた。	任意参加での国際交流を実施はできたが、定期的に行えるような交流活動を模索したい。	5
II 地域社会・産業に寄与する学校	3 「地域農業の生産を支える教育」を行います。	(1)地域農業についての学習を深める授業を各学年それぞれ4時間以上実施する。	(1)地域の幼稚園児や小学生との交流学习を含め実施できた。	長く実施している活動については、内容を検討し実施内容を常に見直し、改善する。	5
	4 「地域の農業関連産業や6次産業化に寄与する教育」を行います。	(1)近隣の先進農家や先進的な農業関連産業に携わる方の講演会を1回以上実施する。	(1)講演会は2月に実施予定。視察に関しては1・2年を対象に実施できた。	講演や視察を通じ、地域の農業が果たす役割の大きさと素晴らしさを再認識できる取り組みにしたい。	5
III 地球環境を守り創造する学校	5 「地球環境を守り、創造する教育」を行います。	(1)SDG'sに関する学習を各学年2時間以上実施する。 (2)農薬、肥料などの適切な施用を基準に従って確実に実施する。	(1)実施済み。 (2)施用基準に基づき実施。	SDG'sについては授業で実践できた。農薬、肥料については基準を守ることはもちろん、環境に配慮した施用を確実に実践しているが、生徒の実習で実践する場面がほばないため座学などで定着させる。	3
	6 「地域資源を活用し、地域振興の拠点となる教育」を行います。	(1)5つある専攻班において地域課題の解決や地域の資源を活用したプロジェクト学習を100%実践する。	(1)各専攻班において地域の農産物や地域課題をテーマに100%実施。	継続して実施し、それぞれの分野で地域課題解決に向けた動きにつなげていきたい。	5
IV 地域交流の拠点となる学校	7 「Society5.0の時代に応じた教育」を行います。	(1)農業科目においてICTを活用した授業を100%実施する。 (2)農業クラブ行事やイベントにおいて確実にICTを活用し、知識や技術を進化させる。	(1)概ね全学年において実施できた。 (2)行事やイベントに活用し、生徒のITCに関する知識や技術を高めることができた。	授業や農業クラブ活動の資料、実習データの共有、アンケートや連絡事項等の伝達など概ね活用できた。	4
V 地域防災を推進する学校	8 「地域防災を推進する教育」を行います。	(1)農業教育において地域の過去に起きた自然災害などに触れる授業を各学年1時間以上実施する	(1)授業にて過去に起きた災害（火山噴火、水害など）について学習した。	災害の種類によっては防災意識が低いもの（地震、火山噴火など）もあり、継続して意識高揚の取り組みが必要。	4